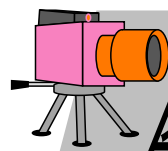


# 代表・一般質問



本会議の録画中継は  
区議会ホームページでご覧いただけます

ホームページ <http://www.gikai-adachi.jp>

# 区政を

税世帯は、国制度で負担軽減措置が講じられるが、住民税課税世帯は対象とならず、負担が重くなる認識している。

区としては、今後国から示されるサービス単価等から影響額を考慮し、検討していく。

【問】生活保護の受給基準額と国民年金受給額は大きな格差がある。現行基準で区民の理解が得られると思うか伺う。それと同時に生活保護受給者の自立が求められるが、この自立支援については、どのように取り組んでいるのか伺う。

【答】65歳の受給者の例では、生活保護額が月額で6万8千312円国民年金額を上回っている。このことについて、全国知事会・市長会は国に対して見直しを求め、厚生労働省では見直しに着手すると発表した。

自立支援については、ハローワーク足立と連携し就労支援事業を行い、実績を残している。

また、新年度には、就労支援に実績のあるNPO法人と協働し、就労意欲の乏しい被保護者に対する就労支援を実施する。



渡辺ひであき 議員

学校長の権限拡大について

【問】今こそ義務教育の構造改革が必要である。中央教育審議会の答申では、義務教育システムについては、「目標設定と基盤整備は国の責任で行い、学校の権限と責任を拡大し、教育の結果の検証を国の責任で行い、義務教育の質を保证する」構造

改革をすべきとしている。重要なのは、ローカルオブティマム(その地域における最適な状態)を踏まえた地方からの発信である。学校長の権限の拡大についてどうあるべきか伺う。

【答】教育委員会と学校の関係についても、学校への権限委譲が教育改革にとって非常に大切であると考える。今後も自主自律的な学校経営を重視して、教育改革を進めていく。

達成状況について

【問】教育内容の改善については、「ゆとり」の中で、「生きる力」を育むことを理念とした現行の学習指導要領は、実施から3年以上が経過し、「ねらいが十分達成されたのかをしっかりと



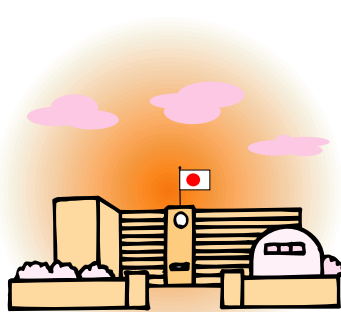
杉崎 征司 議員

## 足立区議会公明党

チャイルドファーストについて

【問】人口が減少しても持続可能なシステムへと再構築していくために、子育てを社会の中心軸に位置づけ、社会全体で支援する「チャイルドファースト」(子ども優先社会の構築)に転換することが重要であると思うが、区長の考えを伺う。

【答】人口減少社会を視野に入れた長期的な視点で区政を運営していかねばならないと認識しており、少子化対策、子育て支援の充実を図っていく必要があると考えている。避難所のトイレ対策について



検証していく必要がある」と提示されている。足立区においてはどうか答弁を求めます。

【答】「足立区学力向上に関する総合調査」により、児童・生徒の学習定着状況等を把握している。今後も検証を続け、学力向上の取り組みに生かしていく。なお、教育内容については、現在、中央教育審議会において議論が続いているところであり、これらの動向を注視していく。

## 足立区議会公明党

【問】災害時における避難所において、トイレの問題は大きな課題であると言われている。避難所となる区立小・中学校ではアーストイレが設置されているが、他区では更にマンホールトイレを導入しているところがある。汲み取り不要なマンホールトイレを区でも導入するべきかと思うが、見解を伺う。

【答】災害時のトイレ確保は大きな課題と認識している。区立小・中学校に設置したアーストイレを核としながらも、避難所付近に設置されたマンホールを活用したマンホールトイレについても導入を検討していく。乳幼児医療費助成制度について

小学校3年生までの入院費の助成が予定されている。今後、財政状況を考えながら、通院を含め、中学校3年生までの拡大を段階的に進めていくべきかと思うが、区長の考えを伺う。

【答】乳幼児医療費助成制度の拡大については、平成18年度から「子ども医療費助成制度」と名称を変更し、小学校3年生までの入院医療費を対象に加えた。中学校3年生までの通院を含めた拡大すると、約7億円の負担増となるので、財政状況を見ながら段階的に検討していく。

【問】連続立体化促進事業の現状の状況はどうか。

また、区としての事業着手についてはどのような課題があるのか。さらに完成の見通しはどうか。区の見解を伺う。



小学校3年生までの入院費の助成が予定されている。今後、財政状況を考えながら、通院を含め、中学校3年生までの拡大を段階的に進めていくべきかと思うが、区長の考えを伺う。

【答】乳幼児医療費助成制度の拡大については、平成18年度から「子ども医療費助成制度」と名称を変更し、小学校3年生までの入院医療費を対象に加えた。中学校3年生までの通院を含めた拡大すると、約7億円の負担増となるので、財政状況を見ながら段階的に検討していく。

【問】連続立体化促進事業の現状の状況はどうか。

また、区としての事業着手についてはどのような課題があるのか。さらに完成の見通しはどうか。区の見解を伺う。

【答】小中一貫教育は、生活指導上の課題解決や基礎的、基本的な学力の着実な定着をめざした新しい仕組みである。この成果に期待するとともに、区内全校の小・中連携にもつなげていきたいと考えている。

また、小中一貫教育校をはじめ、今後も特色ある学校づくりをすすめる、児童・生徒や保護者の要望にあった小・中学校の教育環境の充実に努めていく。



ふちわき 啓子 議員

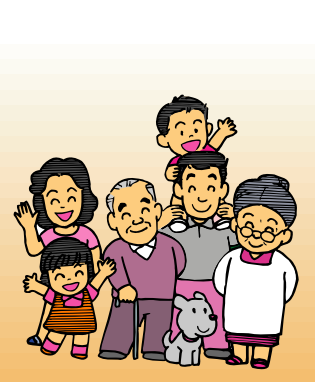
【問】団塊の世代の地域参加について

【答】「子育て支援策には、区民との協働が不可欠である。休日・夜間の子育て相談についても、子育てボランティアやNPOとの協働が必要であり、地域に帰ってくる団塊の世代の活用を検討していく。」

都の「子育て支援基盤整備包括補助」案は、現時点では詳細は不明だが、区としては積極的に活用し、子育て支援拡充に取り組んでいく。

「雪見橋」について

【問】神明・六木地区の道路安全対策について伺う。特に「雪見橋」はコミュニティバスの運行経路であるが、老朽化の問題



【問】子育て支援策には、区民との協働が不可欠である。休日・夜間の子育て相談についても、子育てボランティアやNPOとの協働が必要であり、地域に帰ってくる団塊の世代の活用を検討していく。

都の「子育て支援基盤整備包括補助」案は、現時点では詳細は不明だが、区としては積極的に活用し、子育て支援拡充に取り組んでいく。

「雪見橋」について

【問】神明・六木地区の道路安全対策について伺う。特に「雪見橋」はコミュニティバスの運行経路であるが、老朽化の問題